

結城紬伝承者育成のための設計図案

【開発の背景】

茨城県結城市を中心として生産されている結城紬は、代々技術が受け継がれている伝統的な絹織物の和服地で、国の伝統的工芸品に指定されているほか、その生産技術は国の重要無形文化財にも指定されています。工程は全て手作業によるもので、真綿から手で糸をつむぎ、模様をつける場合は細かな印付けや防染を行い、地機と呼ばれる古来の織機にて織ります。

生産に要する期間は複雑な柄のものになると、糸つむぎから完成まで1年を超え、その技術は世界でも守るべきものと認められ、2010年11月にユネスコ無形文化遺産に登録されています。

しかしながら生産量は1980年代の三万反をピークに減少し生産者も減少しています。

このような状況から、本場結城紬技術保持会では「伝承者育成事業」を実施しており、その事業委託を受けた保持会会員企業では機織研修に取り組んでいます。

【開発の経緯・支援内容】

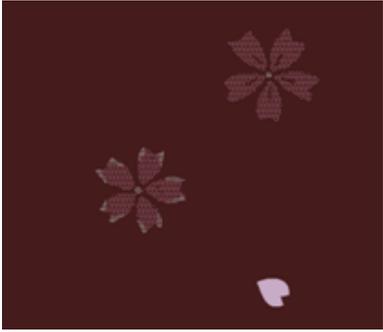
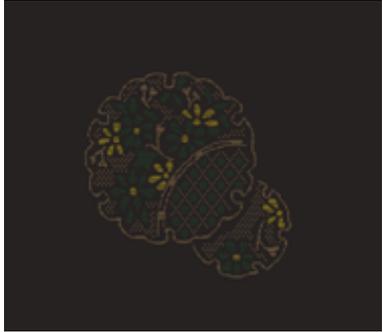
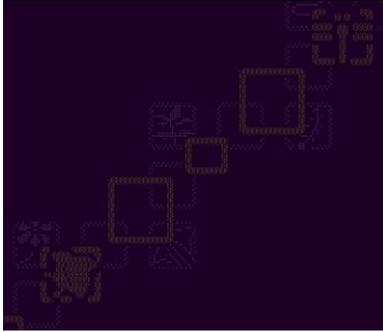
「伝承者育成事業」では結城紬産地の織り手の育成を図るために、経験豊富な伝統工芸士と、経験の浅い織り手とが、指導を交えながら一緒の場所で同じ柄を織ります。

このため、経験の浅い織り手の年数や技量に合わせた図柄が必要となり、今回、工業技術センターではその点を考慮した図柄の制作3点を支援いたしました。

【開発した製品の紹介】

支援した図柄および織り手の経験年数は表1のとおりで、経験年数に応じて難易度の高い図柄としています。この図柄をもとに支援先企業では反物作成を行い、それを通じて伝承者育成、産地育成に用いております。

表1 支援した図柄

低い ←-----	難 易 度	-----> 高い
製織経験年数：3年	製織経験年数：5年	製織経験年数：8年
		

※いずれも部分拡大

なお、伝承者育成事業によって織られた反物は、結城市教育委員会にて事業成果報告や産地内催事での展示などに用いられておりますので、機会がありましたらご覧ください。

基礎となった事業	平成 25 年度 オンリーワン技術開発支援事業（受託研究）			
現在の担当部門	紬技術部門	部 門 長	篠塚 雅子	TEL:0296-33-4154
		主任研究員	中野 睦子	
	産業連携室	室 長	児玉 弘人	TEL:029-293-7213
		主任研究員	石川 章弘	